



これからのローターアクト

国際ロータリー第2510地区

ローターアクト委員会 委員長

高橋 耕

(札幌幌南RC)

日頃よりローターアクト委員会の活動にご理解ご協力をたまわり、誠にありがとうございます。3月13日より19日がローターアクト週間です。ローターアクトにちなんだお話ということで、今までとこれからのローターアクトをお伝えしたいと思います。

ローターアクトの始まりは、1960年代にさかのぼりインターアクト（高校生のためのプログラム）を終えた若い人達が活躍できる場が必要と考え、青少年プログラムの一環として18歳から30歳の若者に対してローターアクトクラブ（RAC）が提案されました。1968年にノースカロライナ大学にシャーロットRACが設立されました。それから55年が経ち、今では世界にRACが11138クラブあり、約17万人の会員が活動しています。日本においては、298クラブ、2564人が活動しています。（2022年7月時点の参考値）

長年ロータリーの青少年プログラムとして活動していたローターアクトですが、2022年度よりローターアクトの立場を大きく変える制度の変更がありました。変更点はいくつかありますが、特筆すべきと私が思うところは2点あります。

1点目はローターアクトがRIに加盟することになった点です。それともなると、ローターアクトはRIに人頭分担金を支払うことになりました。社会人基盤のRACで年間8ドル（大学基盤は5ドル）とアクトにも支払いやすい額に設定されています。この義務を負うことによって同時に権利も享受できるようになり、条件がありますがRACがグローバル補助金を活用することも可能になりました。少ない人頭分担金で、最低3万ドルの補助金を活用できるわけです。現時点において他地区ではありますが、アクトが単独でグローバル補助金にチャレンジしているとの報告がありました。

2点目は30歳までの年齢制限がなくなったことです。各RACで年齢の上限を設定することができますが、設定しなくてもよいと変更になりました。当地区のRACでもクラブによって活動できる年齢の上限が違います。日本全体では、現状通り30歳までにするクラブが40%、35歳までにするクラブと完全に年齢制限なしのクラブがそれぞれ30%となっているようです。

この2点によって、RACは青少年プログラムの一環ではなくなり、ロータリーとともに活動していくパートナーになったのではないのでしょうか。まだ、完全にこれらのことに対応できているとは言えませんが、他地区の動向をみながら対応していく予定です。

地区大会や地区協議会など、今後は今まで以上にロータリーの様々な行事にアクトが参加していくことになるでしょう。とはいえ20代、30代の若者ですので、ロータリアンの皆さんに気軽に声なんてかけられません。その際は、皆さんから暖かく声をかけていただければ、彼らの緊張もほぐれることでしょう。今後ともローターアクトの活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願いたします。